

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
春ですね。でも昨日は雪が降ったところも！みなさまいかがお過ごしでしょうか。
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動しています。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

1 天笠啓祐さん 遺伝子組み換え食品学習会 参加報告

■ 1 ■ 天笠啓祐さん 遺伝子組み換え食品学習会 参加報告

お勉強編第2弾。遺伝子組み換えの技術の一つである「ゲノム編集技術」学習会
に参加したので、内容をお伝えしたいと思います。

講師は、遺伝子組み換え食品いらないキャンペーン代表の天笠啓祐さん。世界で
一番高い割合で遺伝子組み換え食品を食べていると言われていた日本人はどのよ
うな危険にさらされているのか、お話をうかがいました。

遺伝子組み換え技術は、単なる品種改良とは違います。これまで人類は数々の品
種改良を行ってきてその恩恵を受けていますが、品種改良は同じ種類同士をかけ
合わせる技術です。例えば「寒さに強いイネ」と「味の良いイネ」をかけ合わせ
て「寒さにも強く美味しい米のとれるイネ」をつくるというようなことです。

それに対して遺伝子組み換え技術は、寒さに強いイネをつくるために「イネの中
に寒さに強い動物の遺伝子を入れる」というような、他の生物の遺伝子を組み込
む技術を言います。そのような異種の遺伝子を組み合わせることによってどのよ
うな生物が生まれるのか、生態系や環境への影響・安全性など、まだ確立されてい
ない技術です。

さらに今「ゲノム編集技術」という新しい遺伝子組み換え技術が問題になってい

ます。今までの遺伝子組み換え技術は、他の生物の遺伝子を「入れる」技術でしたが、ゲノム編集技術はその生物の遺伝子の働きを「止める」技術です。イネの遺伝子の「寒さに弱い」部分の遺伝子の働きを止めてしまうことで寒さに強いイネに改変する技術です。今までの遺伝子組み換え技術よりも安全性が高いように思われがちですが、オフターゲットと呼ばれる意図しない改変が起こる問題や、そもそも 100% 解明されていない現状で遺伝子を操作すること自体の危険性、デザイナーベビーにつながる倫理的な問題も指摘されています。

いま遺伝子組み換え技術で生産されている主な性質は「除草剤耐性」と「殺虫性」です。

「除草剤耐性」は除草剤をかけても枯れない性質を持たせることで、畑一面に無差別に除草剤を撒けば、草は枯れるがその植物（例えばダイズ）は生き残るので生産性があがるというものです。しかしそのダイズ自体に除草剤が残留する上、除草剤に耐えるスーパー雑草の登場でどんどんキツイ（効果の高い）除草剤が使われるようになってきており、農薬による体や環境への危険が高まっています。除草剤に使われる成分の発がん性、発達障害や自閉症への影響も指摘されはじめています。

「殺虫性」はその植物自体に殺虫性をもたせることで、殺虫剤を撒かなくても虫がその植物（例えばトウモロコシ）を食べたら死んでくれるので生産性があがるというものです。しかし虫が食べたら死ぬようなトウモロコシを人間が食べて安全だといえるのでしょうか。アメリカでは殺虫性を持つ遺伝子組み換えトウモロコシ自体が農薬登録されているそうです。私たちは農薬を食べている！？

遺伝子組み換え作物が本格的に栽培されるようになって 20 年。日本では商業栽培は認められていませんが、大豆、トウモロコシ、綿、ナタネは遺伝子組み換えのものが輸入されて流通しています。食用油や飼料、食品添加物の原料として使われていることが多いので、国産のもの、有機のものを選び、手作りを心がければ摂取を減らすことができます。

有機、国産を選ぶことは、遺伝子組み換え食品だけでなく農薬、添加物を避けることにもつながり、地域の農業を守り、国産自給率を上げることにも、生態系や環境を守ることにもつながります。それこそが私たちが目指す本当の食育だと考えています。

遺伝子組み換え食品いらないキャンペーン <http://gmo-iranai.lolipop.jp/>

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (奈良市今市町 40-1)
